

けて、読み返す習慣がついてい
る「なごの、到達度目標」を
記すようになってゐる。

画期的試みと思う

大八木京都府教育長の話 教育
をめぐる困難な状況の中で、学
校教育においても矛盾が拡大する
など、極めて深刻な影響が現れて
いるが、児童、生徒が習得すべき

「学力」を具体的に表し、それを
伸ばすことと役立つものであり、
画期的な試みだと思う。

実施、好ましくない

文部省小学校教育課の話 小、
中学校の学習評価は、従来から相
対評価が好ましく、府県教委へ
指導しており、京都の到達度評価
は好ましくない。その理由は、

習評価が各府県でバラバラになっ
てしまう形式上の問題、次は内容
面だが、小、中学校で、はたして
たれもが賛同する基準学力を規定
すべきかどうかという点で疑問が
持たれる。この実施は、あくまで
各市町村教委であり、はたして
それだけの市町村が賛同するか、疑
問だ。

50225

大摩美 内紛深まり法廷闘争

理事長の解雇学長側、申請へ

私立の名門美術大学として知ら
れる「多摩美術大学」(東京都世
田谷区上野毛)で、経営権を持つ
理事長が入学試験の途中で、学長
と教務部長の二人の教授を突然
解雇し、問題になっているが、解
雇された二人は「十年にわたるワ
ンマン理事長の暴挙は目に余る。

大学を私物化した理事長と徹底的
に争う」として、二十五日、東京
地裁に両教授の「地位保全」と
「理事長の職務執行停止」を求め
る仮処分申請を出すことになっ
た。また、参院文教委員会でも二
十八日にこの問題をとりあげる。
問題を投げたのは村田副理事長

の記念切手の発行計画を発表し

長を。解雇されたのは学長の真
下信一氏(六八)と教務部長の山脇國
利氏(六三)。真下教授は著名なヘ
ーゲル研究者で、日本学会議の会
員。同会議の「学問、思想の自由
委員会」の委員長をかねている。
また山脇教授は同大の入試委員
長、真下学長は当然、入試の最高
責任者だが、二人が解雇されたの
は入試期間(十二日から二十二日

まごのさ中の十五日だった。
今回の「解雇事件」の発端は十
三日の「奇妙な投書」から始まっ
た。「二年前の入試に不正があっ
た」という「父兄」からのコピ
ーされた投書で、学長や一部の理
事、事務職員に送られてきた。真
下学長はこれを「仕組まれた
怪文書」という。しかし、村田理
事長はこれを理由に十五日、理事
会にもはからず「査問委員会」を
設置、「不正事件に両教授が関係
あった」として、山脇教授に出席
を求めた。両教授がこたわると、
真下、山脇両教授の「解雇」を一
方的に決め、その「解雇」の辞令
を同夜半に、事務職員の手で両氏
宅に届けさせた。
しかし、真下学長らの説明によ
ると、この「解雇」事件の根は深
い。
同学長は四十五年、名古屋大学
から学長として多摩美大に招かれ
た。この時は「任期」の制限はな
かったが、その後四十七年、四十
九年の二回、学長選挙を実施し、
いずれも学長に選ばれた。しかし
同学長が、村田理事長のワンマン

経営を批判する立ち場に立ったた
め、同理事長は強く反発、四十九
年の同学長の再選を承認する理事
会を開くことを拒否していらると
う。

こつたいきまじつがあつてさ
る一月、学長を擁護する理事五
人(理事会は八人で構成)が、村
田理事長に対し「同理事長は四十
八年三月末で多摩美大の事務局長
を退職し、同時に理事の資格を失
った。したがって理事長としての
適格性を失った」と理事長の資格
失格を宣言、対立は決定的となっ
た。今回の「解雇」事件は、こう
した対立を一気に押し切ろうとす
る理事長のクーデターだと、真下
学長らはいう。
同大学では、入試合格を決める
予備判定会議を二十七、二十八両
日に開き、最終決定の総合判定会
議を来月一日実施することにな
っているが、この最高責任者の学
長と入試委員長の教務部長が「解
雇」されているという、変則事
態を迎えた。

曾沢学長を再任

奈良女子大

奈良女子大学(奈良市北魚野西
町)は二十四日、三月末で任期が
切れる曾沢太吉学長(六三)の再任を
決めた。曾沢学長は、十二日の教
授会で再選、「健康に自信がな
い」として固辞していたが、この
日受諾を表明した。任期は一年。

易

入試もなかな内紛爆発

多産美大



学長らの解雇をめぐって内紛が起きている多産美大

看板学長の「突然」首切り

理事長が一方的に 対立2年ついに決裂へ



長、信一学長

突然「首切り」

私立美大の看板「多産美大」（本校・東京都豊島区北野三の（五）三四）で、経緯を一手に握る和田利教理事長（元）が、突然「不都合の行状があった」として理由、真下信一学長（元）山陽副理事長（元）（理事長代行）の理事を、一方的に解雇した。理事長の「首切り」として二人は「不当解雇では」と訴え、理事長の「無理難題は降さない」と近く抗議地獄に「身分保存」「理事長職を停止」を求め、学区申請を出し、一方的に争う様子。真下学長は、日本学術会議委員、マルクス、ヘルツの塾生として知られる経済学者。学長職務の副学長からは、理事長の責任追及の要求も出始めており、入試試験中の間、激しい内紛の火の手が上がりつつある。

理事長の語を総合すると、解雇の経緯は、四十八年三月の入試期にさかのぼる。入試期間の内容をめぐり、和田理事長と真下学長、山陽理事長の間で意見が食い違ひ、「最高責任者は理事長だ」とする和田理事長と真下学長らが反対、「それなら理事長」という論争的対立に至り、決裂した。

この時は、理事長側が折れ、和田理事長は解任されたが、事後、昨年四月理事会の決議による学長選挙では、真下学長が対立候補を擁護して首切りされた。村田理事長は選挙承認のための理事を任命せず、真下学長は理事会承認をしない、副理事長を任命して解任された。このため、三月十八日、九月の理事のうち、学長職務の理事五人が事実上解任された。真下学長は、理事会ははからず学校の方針決定と持ち出し、理事長職を解任して責任を被った。村田理事長は、理事職を継承した。このことが和田理事長を激怒させ、理事長職は三月十四日、校内で「暫定委員会」とする委員会を開き、真下学長、山陽副理事長の二人を事実上解任した。この一人事をめぐり、二つの意見があらわれ、理事長の行状があり、解任を求めた。解任通知は、三月十五日深夜、事務局の手で二人の扉に届けられたが、暫定委員会の意向を踏まえて、二年前、入試に不正があったと告げ、理事職を継承した。理事職を継承した。このことが和田理事長を激怒させ、理事長職は三月十四日、校内で「暫定委員会」とする委員会を開き、真下学長、山陽副理事長の二人を事実上解任した。この一人事をめぐり、二つの意見があらわれ、理事長の行状があり、解任を求めた。解任通知は、三月十五日深夜、事務局の手で二人の扉に届けられたが、暫定委員会の意向を踏まえて、二年前、入試に不正があったと告げ、理事職を継承した。

理事長の語を総合すると、解雇の経緯は、四十八年三月の入試期にさかのぼる。入試期間の内容をめぐり、和田理事長と真下学長、山陽理事長の間で意見が食い違ひ、「最高責任者は理事長だ」とする和田理事長と真下学長らが反対、「それなら理事長」という論争的対立に至り、決裂した。

この時は、理事長側が折れ、和田理事長は解任されたが、事後、昨年四月理事会の決議による学長選挙では、真下学長が対立候補を擁護して首切りされた。村田理事長は選挙承認のための理事を任命せず、真下学長は理事会承認をしない、副理事長を任命して解任された。このため、三月十八日、九月の理事のうち、学長職務の理事五人が事実上解任された。真下学長は、理事会ははからず学校の方針決定と持ち出し、理事長職を解任して責任を被った。村田理事長は、理事職を継承した。このことが和田理事長を激怒させ、理事長職は三月十四日、校内で「暫定委員会」とする委員会を開き、真下学長、山陽副理事長の二人を事実上解任した。この一人事をめぐり、二つの意見があらわれ、理事長の行状があり、解任を求めた。解任通知は、三月十五日深夜、事務局の手で二人の扉に届けられたが、暫定委員会の意向を踏まえて、二年前、入試に不正があったと告げ、理事職を継承した。

理事長の語を総合すると、解雇の経緯は、四十八年三月の入試期にさかのぼる。入試期間の内容をめぐり、和田理事長と真下学長、山陽理事長の間で意見が食い違ひ、「最高責任者は理事長だ」とする和田理事長と真下学長らが反対、「それなら理事長」という論争的対立に至り、決裂した。

この時は、理事長側が折れ、和田理事長は解任されたが、事後、昨年四月理事会の決議による学長選挙では、真下学長が対立候補を擁護して首切りされた。村田理事長は選挙承認のための理事を任命せず、真下学長は理事会承認をしない、副理事長を任命して解任された。このため、三月十八日、九月の理事のうち、学長職務の理事五人が事実上解任された。真下学長は、理事会ははからず学校の方針決定と持ち出し、理事長職を解任して責任を被った。村田理事長は、理事職を継承した。このことが和田理事長を激怒させ、理事長職は三月十四日、校内で「暫定委員会」とする委員会を開き、真下学長、山陽副理事長の二人を事実上解任した。この一人事をめぐり、二つの意見があらわれ、理事長の行状があり、解任を求めた。解任通知は、三月十五日深夜、事務局の手で二人の扉に届けられたが、暫定委員会の意向を踏まえて、二年前、入試に不正があったと告げ、理事職を継承した。



和田理事長は、入試期間に不正があったと主張し、理事職を継承した。このことが和田理事長を激怒させ、理事長職は三月十四日、校内で「暫定委員会」とする委員会を開き、真下学長、山陽副理事長の二人を事実上解任した。この一人事をめぐり、二つの意見があらわれ、理事長の行状があり、解任を求めた。解任通知は、三月十五日深夜、事務局の手で二人の扉に届けられたが、暫定委員会の意向を踏まえて、二年前、入試に不正があったと告げ、理事職を継承した。

者の現金カードを使って 元行員六百万円横領

カード一枚で現金を盗難に引き出させ、キャッシングカードを自分の物として得意店の口座から勝手に引き出し、現金約六百五十万円を引出し、脱走し、東京・中央公園付近に隠れた。この隠れ家は、三井銀行の職員が住んでいる。この隠れ家は、三井銀行の職員が住んでいる。この隠れ家は、三井銀行の職員が住んでいる。この隠れ家は、三井銀行の職員が住んでいる。

新宿の雨、ダイヤの悪化



点検中のダイヤが歩道に降った

通行の4人方

梅だよりととも春一番 習慣づけたいうがいと洗眼

春の到来とともに、梅だよりととも春一番の習慣をつけたい。うがいと洗眼の習慣をつけたい。うがいと洗眼の習慣をつけたい。うがいと洗眼の習慣をつけたい。